



まだ感染者が出ていない先住民族学校地域。
皆様のご協力によるバック弁当とギフトで
クリスマスを祝うことができました。



2022年1月25日発行

NPO法人ビラーンの医療と自立を支える会

(英文名略称・HANDS)

本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町516-11

TEL & FAX: 045-500-9151

E-mail: hands-mindanao@nifty.com

<http://hands-mindanao.a.la9.jp/>

郵便振替口座 00210-5-72693

加入者名：ビラーンの医療と自立を支える会



SDGs 16「平和と公正をすべてのひとに」 — 私たちにできること、NGOとして・市民として —

新型コロナ禍でオンライン開催となった昨秋の「SDGsよこはまCITY」。当団体はデジタル化対応への遅れもあり、最終的には参加を断念しましたが、当初はトライするつもりで、参加団体登録フォームを埋めました。SDGs(持続可能な開発目標)へのコミットの項目では、1の貧困、3の健康、4の教育、13の気候変動を私たちが目指してきた、あるいは、今後も目指すゴールとして挙げるとともに、「市民へのメッセージ」の項目では、16番の「平和と公正をすべての人に」を取り上げました。

この「平和と公正」のうち、平和であることの重要性は、私たちが特に活動の初期には、イスラム過激派や共産ゲリラと政府軍との小規模な衝突遭遇などを通じて実感しました。幸い当団体が支援した簡易水道や校舎が破壊されたり、住民が戦火の中を逃げ惑うような事態にはなりませんでしたが、より政情不安な国や地域におけるNGO活動に関しては、医療や教育事業で支えてきた子どもたちが戦闘に巻き込まれ、学ぶことはおろか、命を落とす事例を数多く耳にしてきました。NGOによる貧困や未就学問題への取り組みも、「平和」が維持されてこそ、確かな実を結ぶことができるという点で、また、その実現には、市民一人ひとりが関心をもち、時には行動することが重要という点から、SDGs16を、市民へのメッセージとして選びました。

ただし、16番のうち、「公正」を脅かす事態への気づき、その対応は、私たちのような市民組織にとっても難しいケースが多々あります。明らかな戦闘状態になくとも、デモ弾圧など、人権が抑圧され、ジャーナリストや弁護士等が正当な裁判なしで命を奪われる事例についても見逃さない努力が求められます。

ミャンマーの軍事政権批判デモに対する弾圧に関連して、昨年7月末NGOのメコンウォッチから、軍事政権に対する日本政府の経済協力事業に関する全面的な見直しを求める署名呼びかけがありました。メーリングリストを通じて、役員、一部会員の皆さんに諮ったうえで、私たちも賛同の署名をしました。

また、私たちの大切なパートナーで、2020年5月29日に何者かに銃撃され亡くなったカワス村長のジョニーさん(ハッサン)や、その他ドゥテルテ政権下5年余りで、麻薬容疑者をはじめ弁護士や活動家等1万を超える住民が超法規的に殺害されたとされる件に関しては、セミナー開催(関連記事P4)の案内を受けて、署名などで意思表示をしました。

以上のように、自ら人権侵害などの「公正」を欠く事態に気づき声を上げるのは難しく、私たちが環境や人権問題に取り組むNGOや研究者による告発により「非公正」に気づかされ、対応するケースが多くなっています。

NGOの範疇では「開発・貧困」NGOに属し、貧困や差別のもとにあった先住民族に関わってきた私たちが、「平和や公正」の実現に貢献できるとしたら、奨学生として教育を受けた青年たちが正しい判断のもとに、公正な政治を行う中央および地方自治体の首長や議員を選出し、あるいは、自らが弱者に寄り添い環境を守る地域のリーダーを目指してもらうことです。そして、まずは、4か月後に迫ったフィリピン統一選挙において、私たちが関わる先住民族の村々でも、真に「平和と公正」実現のために働く為政者を選び、また、選ばれることに期待したいと思います。(山崎)